バーチャル オープンキャンパス

自宅に居ながら参加できる

ガイドブック スペシャルサイト

学生や研究室の動画を配信

NIHON UNIVERSITY
College of Engineering
DEPARTMENT OF COMPUTER SCIENCE

日本大学工学部　情報工学科

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原1
TEL.024-956-8818（学科センター） FAX.024-956-8863（学科センター）
http://www.cs.ce.nihon-u.ac.jp

情報工学の世界へようこそ！

日本大学工学部ガイドブックスペシャルサイト 情報工学科編より

GUIDE BOOK 2021

日本大学工学部
情報工学科
DEPARTMENT OF COMPUTER SCIENCE

NIHON UNIVERSITY College of Engineering

Approach

情報工学科からのアプローチ

人と地球と未来のためにできること

-LOHAS Engineering-

LOHAS、健康を重視し、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルを指す言葉。
時代の先を見据え、人と環境にやさしい情報化社会の実現を目指す情報工学科の研究室を紹介します。

ネットワーク系

ネットワークサービス研究室
61号館3階／307号室

スマート社会における新たな価値を実現するサービスの創出

教　　授／西園 敏弘

ネットワーク制御工学研究室
61号館4階／402号室

環境変化に適合したフレキシブルなネットワークを実現

教　　授／源田 浩一

情報サービスシステム研究室
61号館3階／303号室

膨大なデータから観測対象の状況やその変化を捉えるサービスを実現する

准 教 授／大山 勝徳

情報ネットワーキング研究室
61号館3階／306号室

新しいネットワークシステムにより安全で便利な社会を実現

准 教 授／見越 大樹

高信頼システム系

情報セキュリティ研究室
61号館4階／404号室

エンタープライズアーキテクチャとメッセージングによるセキュアな情報基盤とオープンデータムーブメント

教　　授／林　隆史

制御ソフトウェア研究室
55号館3階／304号室

スケーラブルで高可用、柔軟なシステムの制御技術

教　　授／上田 清志

高信頼性システム研究室
61号館2階／204号室

信頼性が高い情報システムの研究開発

准 教 授／関澤 俊弦

ソフトウェア系

ソフトウェアシステム研究室
61号館4階／409号室

高品質なソフトウェアを作るための実践的なソフト開発

教　　授／杉山 安洋

環境系

環境情報解析研究室
55号館3階／306号室

地球環境の今を把握する

教　　授／若林 裕之

ジオインフォマティクス研究室
55号館3階／305号室

情報工学を地球科学のために役立てる多彩なアプローチを通して地球規模の問題解決に取り組みます

准 教 授／中村 和樹

生産システム工学研究室
61号館4階／408号室

多種多様なセンサデータの総合的分析に基づく大規模環境・大型構造物の非破壊診断

准 教 授／溝口 知広

防災・環境シミュレーション研究室
61号館4階／403号室

最先端のスパコンによる防災や環境に関する超高精細シミュレーション

准 教 授／宮村 倫司

知能情報系

知能情報処理研究室
61号館4階／406号室

人間や生物が行っている情報処理を応用する

教　　授／岩井 俊哉

メディア系

知能画像システム研究室
61号館3階／309号室

ヒトのような視覚機能をもつコンピュータ＆システムの実現

教　　授／加瀬澤 正

次世代マルチメディアシステム研究室
61号館3階／302号室

高度なマルチメディア技術を用いて次世代の新しいシステムやサービスを創造します

教　　授／松村 哲哉

知能通信システム研究室
61号館3階／308号室

人工知能を利用した知的情報通信システムの構築を目指して

准 教 授／和泉 勇治

音声情報処理研究室
61号館4階／405号室

人間と機械の自然な対話の実現を目指す

専任講師／金子 正人

視覚応用画像システム研究室
61号館3階／305号室

人間の視覚特性を応用した新しい画像処理技術の開発

専任講師／田中 宏卓

※公開内容は若干変更になることがあります。

Curriculum

カリキュラムの特徴

コンピュータのプログラミング（共通）

コンピュータ入門及び演習　コンピュータアーキテクチャ入門　プログラミング入門及び演習
プログラミングの基礎及び演習　データ構造入門及び演習

コンピュータシステムの基礎（共通）

データベース工学　コンピュータアーキテクチャI　基礎オペレーティングシステム
ソフトウェア設計法及び演習　コンピュータネットワーク

ソフトウェア開発・システム設計（情報システムコース）

WWWとJavaプログラミング及び演習　データ構造とプログラミング及び演習
高度オペレーティングシステム　情報ネットワーク　アルゴリズム論
プログラミング言語　オートマトンと言語及び演習　コンパイラ及び演習

マルチメディア・AI・応用処理（情報デザインコース）

マルチメディア　画像情報処理及び演習　コンピュータグラフィックス　人工知能Ⅰ・Ⅱ
ヒューマンインタフェースと音声　環境と情報　情報マネジメント

エンジニアリングデザイン（選択）

大規模ソフトウェア開発法及び演習　ネットワーク管理技術及び演習*
デジタル形状処理及び演習　コンピュータビジョン及び演習　情報工学応用演習Ⅰ・Ⅱ

情報一般（共通）

確率統計及び演習　コミュニケーションスキル　情報と職業　技術者倫理

情報一般（選択）

情報理論　符号とセキュリティ　数値解析法・同演習　Webコンテンツ及び演習
論理回路及び演習　コンピュータアーキテクチャII　企業実習　情報処理演習I*
情報処理演習II*

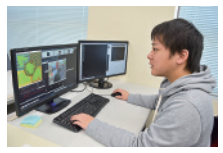
*印:資格取得支援科目

情報システムコース

コンピュータシステム及びプログラミングを中心とした科目を履修し、情報処理システム分野において高い実務処理能力を有する技術者を養成するコース。

情報デザインコース

メディアヒューマン系の科目を含めてバランス良く履修することにより、デザインなどの情報処理応用分野において、幅広い実務処理能力を有する技術者を養成するコース。



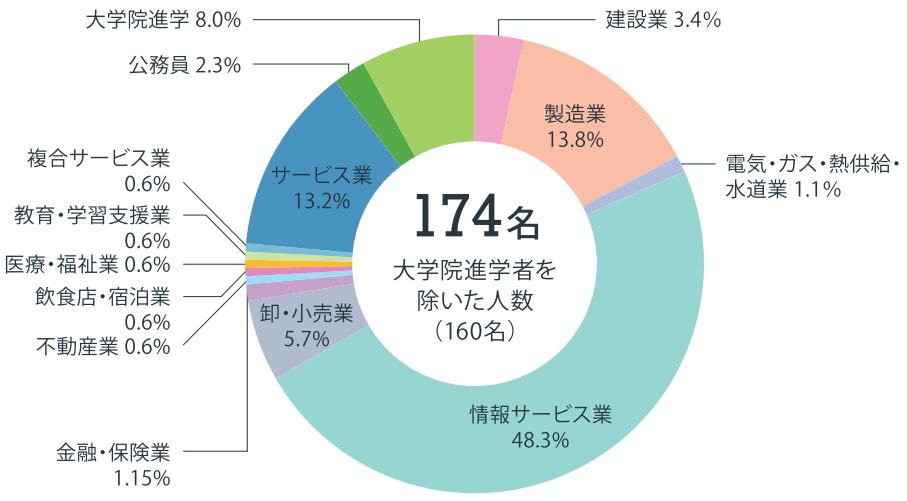
1年	2年	3年	4年
●教養・外国語	●コンピュータプログラミング（共通）	●ゼミナール	●卒業研究 各配属研究室のテーマごとに研究
●自然科学の基礎	●コンピュータシステム（共通）		
●情報工学の基礎 コンピュータ入門及び演習 プログラミング入門及び演習 プログラミングの基礎及び演習 コンピュータアーキテクチャ入門	●情報一般（共通） ●情報一般（選択） ●ソフトウェア開発とシステム設計（情報システムコース注） ●マルチメディアとその応用（情報デザインコース注）	●エンジニアリングデザイン	

注：共通の必修科目に加え、各コースの科目を中心に履修。

Career

就職・進学

産業別就職状況 ［令和2年3月卒業・修了者］



主な進路・就職先（令和元年度）

凸版印刷（株）／大日本印刷（株）／東北電力（株）／三菱電機（株）／日本電気（株）／矢崎総業（株）／（株）日立ソリューションズ・テクノロジー／アルパイン（株）／大同信号（株）／ＮＥＣフィールディング（株）／エヌ・ティ・ティ・データ先端技術（株）／ソニーＬＳＩデザイン（株）／東芝デジタルソリューションズ（株）／富士通（株）／（株）ＮＳＤ／（株）ＮＴＴデータ・アイ／（株）ジャステック／（株）日立社会情報サービス／東邦情報システム（株）／富士ソフト（株）／（株）ＮＳ・コンピュータサービス／（株）エム・ソフト／（株）シーキューブソフト／福島コンピューターシステム（株）／（株）茨城県農協電算センター／（株）大東銀行／ネットワンシステムズ（株）／エリクソン・ジャパン（株）／（株）ＮＴＴ東日本ー南関東／いすゞ自動車（株）

大学院進学 14名

情報工学科で得られる主な資格

◉：情報処理技術者、CG-ARTS協会検定、CompTIA認定資格、マイクロソフト認定技術資格、NTTコミュニケーションズインターネット検定、ITコーディネータ、日商PC検定、シスコ技術者認定、オラクル認定資格制度、OMG認定UML技術者資格試験
◉：技術士　◉：技術士補
◉：FE、電気通信主任技術者

◉：在学中に受験できる資格　◉：卒業後の実務を経て受験資格が得られる
◉：これ以外の注目すべき資格　◉：**卒業により一部試験の免除がある**

教員免許

中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	
数学	数学	情報
○	○	○

○：取得可能な教員免許

卒業生紹介

伊藤 駿理さん

日本大学工学部 情報工学科
2014年3月卒業
秋田県立本荘高等学校出身

東芝デジタルソリューションズ株式会社 勤務
ソリューションセンター リモートモニタリングソリューション部
（リモートモニタリングソリューションクリエーション担当）

**最新技術に触れることで得られた達成感と自信
未来の社会のために学び続けていく**

現在は、最新の技術であるIoT分野のさまざまなシステム開発業務に携わっており、お客様がどう運用するかをイメージしながら、どの手法や技術を使って実現させるかを考えることに面白さを感じています。システムを設計する立場として、海外の技術者とのやりとりも多く、人と関われることも魅力です。最先端だったドローンにセンサを搭載し、アンドロイド端末を使って人が入れない場所の放射線量を測っていた大学時代。学生のうちから新しい技術に触れることの楽しさを知り、社会貢献できたことで達成感が得られ、大きな自信を醸成することができました。